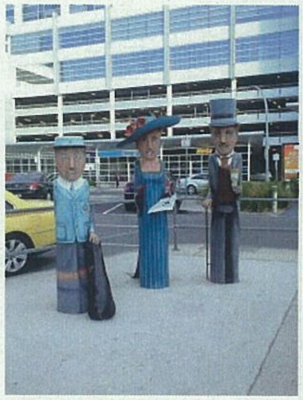
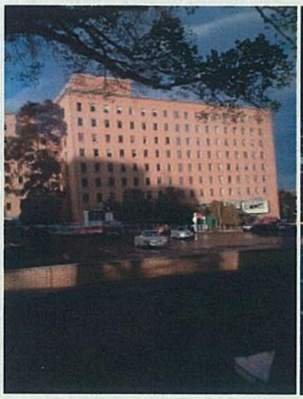
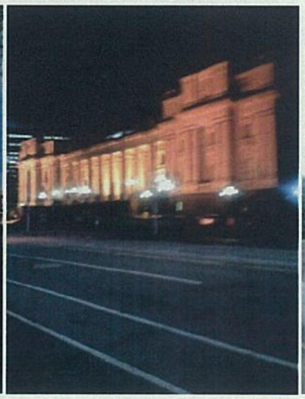
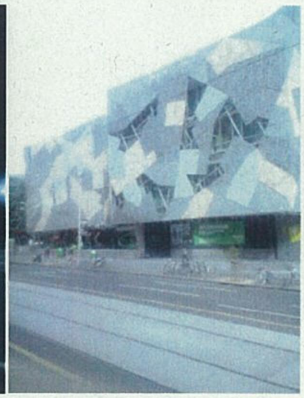
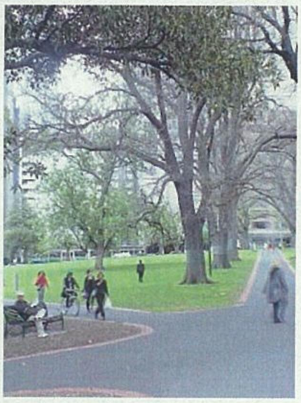
メルボルン。「世界で最も住みよい街」との評判。（報告　9）

メルボルンの空の玄関はタラマリン国際空港と呼ぶ。この街に宿泊予定のホテルもやはり「メルキュール」。散々な目にあった仲間がたくさんいて「また、メルキュールか、変えて呉れよ！」とブーイングが出る始末。格落ちのチェーンホテルの様だったので、同感であった。ウェリントンを15時25分に出発。4時間5分飛行してタラマリン国際空港に到着したが、時差2時間遅れで、まだ夕刻17時30分だった。空港ビルを出た所で、3人の人形に丁重な？出迎えを受けた。

メルボルン（州都都市圏人口389万人、自治体人口9万人）は、シドニー（州都都市圏人口434万人自治体人口17万人）と何かにつけて対抗しているらしい。かつて首都を決めるにも折り合わず、中間地点にわざわざ「首都特別地域キャンベラ」を設けている。日本人ガイドの説明は流暢ながら、メルボルン自慢が重なった。世界中で最も住みよい街第1位に3回も選定され、半径40～50キロメートルの首都圏は、周辺を統合して、人口は増加し、アジア、アフリカ系の移民が増えている。多文化主義が貫かれ、英語を公用語としながら、それぞれの母国語、継承語を尊重し、政府が提供する行政サービスにも、どの言語でもアクセス出来る仕組みになっている。

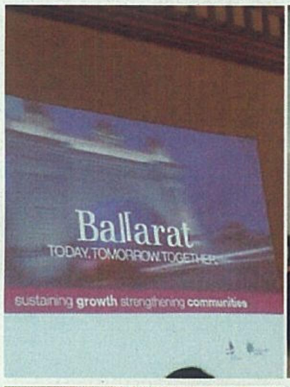
街全体に赤いレンガ造りの建物が多いがオーストラリアの赤い砂岩を利用したもので、地震がない国だから高層ビルが多く、中には中国人投資家が建設した世界一高い（値段も）マンションがあり最上階には空中展望台が設けられている。自然が残されていて公園が多く、ガーデンシティと呼ばれ、世界で三番目に古い動物園もある。都心に入ってひときわ大きな赤レンガの建物が見えて来た。ロイヤル子ども病院、ロイヤル女性病院、メルボルン大学と説明は続いた。ホテルに到着して夕食20時に間に合わない様なドアキィ（カード）トラブルは「メルキュール」の悪評となった。（10月12日）

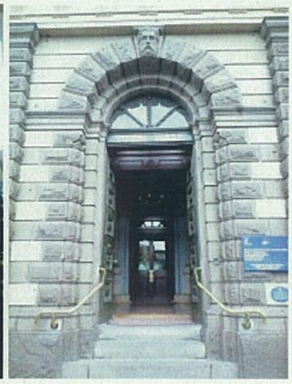






バララット市議会。昔、金鉱の町として発展。文化遺産の保全と活用。（報告　10）

バララット市は、メルボルンから北西約110キロメートルに位置しており、1858年に大規模な金鉱が発見されゴールドラッシュで栄えた。視察団は早朝8時にホテルを出発して2時間余。市議会に到着するとジュディ・バーリン市長が玄関先まで出迎えてくださった。早速モーニングティーでくつろぐ。この都市のスローガンは「トゥディ、トゥモゥロウ、トゥギャザー」である。市長の説明は、ビクトリア州から贈られた1800年当時の州議会の様子が画かれた巨大な絵画が飾られた部屋で始められた。その部屋は、市議会、市民の集会など市の重要な会議が開かれる場所とのことだった。

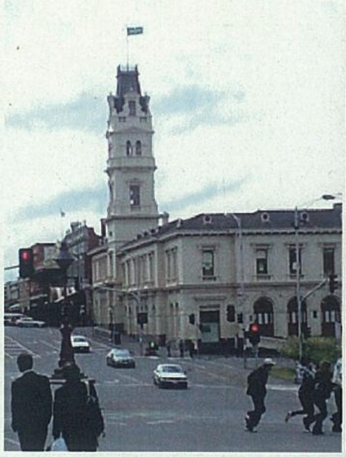
バララット市の人口は約9万人。議員の選挙区は、北部（農村と一部工業地域）、中心部（ビジネス、ショッピング街）、南部（住宅地）の3区からそれぞれ3人、合計9人が選挙で選ばれ、議員の互選で市長が選ばれ議長も務める。議員任期は4年。市長任期は1年。昨年11月に市議会は「透明性のある市民との協議に基づいた市の発展」を掲げ、住民との相談・協議により、何を重点とするか、4年間で達成すべきプランをたてた。市長は1996年から6年間議員に在籍し、その間1998年から1年間市長を務めた。昨年6年振りに議員となり、再び市長に就任している。1996年に5つの町が合併編入されて、多額の負債を抱えたが、現在は、経済的基盤は確立している。ビクトリア州内では、潜在性を持っており、20年以内にメルボルンに次ぐ第2の都市となる。国際交流促進のため「多民族文化促進大使」を選任し、市民の行政参画・関与促進のために「コミュニティーサミット」（市民100人参加）を開いた。北部、中央部、南部にそれぞれの目標を　掲げ、議員各位は、日常業務の繁忙の中で、議会は夜間に開かれる。世界平和促進のために7項目のプログラムを推進している。1998年8月1日に兵庫県猪名川町と姉妹都市提携している。市長の熱弁は止まるところを知らず、首席行政官や担当局長の出番にまで及んだ。本職はコンサルタント業だとの事　だった。文化遺産の保護に力点を置いている施政執行状況も良く理解できた。

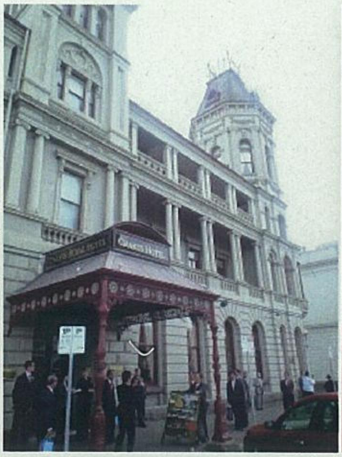




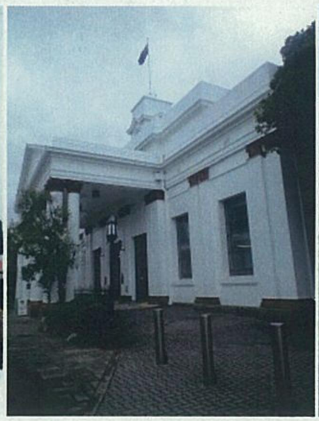
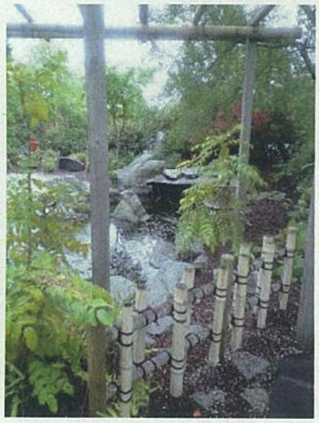
金鉱の町再現「ソブリン・ヒル」野外博物館。（報告　11）

バララット市は、1880年代にゴールドラッシュに沸いた町だけあって、市内には、市庁舎をはじめロイヤルホテルなどなど、ビクトリア様式の建築物が数多く保存活用されている。文化遺産を持つ町の世界連盟に加入しており、2006年には、世界歴史都市会議を主催した。テーマパーク「ソブリン・ヒル」は、広大な丘に1850年代の街並みを再現した屋外博物館であり、金鉱の町として発展していた当時の歴史をしのばせる。地下20メートルの鉱山に斜行ケーブルカーで下り、当時の坑道をほのかな灯りを頼りに体験散策できる。子どもたちの学習の場にもなっていて数多くの子どもたちがノートを手にして、観光客に混じり走り回っていた。実は、この金鉱山も1918年には閉山されている。市庁舎には、姉妹都市猪名川町から贈られた日本庭園が良く調和していた。





高齢者福祉。グレンアイラ市視察。（報告　12）

グレンアイラ市はメルボルンから約11キロメートルの至近な位置にあり、人口約123000人で60歳以上が20パーセントを超え、なお増えていく傾向にあり、ビクトリア州では最も高齢化率が高く、オーストラリアの高齢者ケアの中核をなす在宅ケアに力を注いでいる先進都市である。ピーター・ジョーンズ市長が出迎えて、まず市の概要を説明された。市議会は、市長（議長）以下9名で3週間に1回、火曜日の夜公開で開かれる。行政スタッフは928名でその3分の1が高齢者のケアを担当している。オーストラリアの国の税収の仕組みは、連邦70パーセント、州27パーセント、地方自治体3パーセントで、地方自治体は、土地税、使用料、手数料、連邦政府や州からの補助金でまかなわれる。

高齢者ケア担当のミッセル・マァーさんの詳しい説明によれば、「在宅ケア」は、サービス利用の問い合わせ段階から、入院・死亡終了の段階まで6部門のビジネスセクションで対応している。ショートスティ、配食、家屋改修、交流・文化活動も支援。対象者は　5000人で、在宅ケアに年間15万時間、住宅改修に5000時間、配食は民間委託の弁当で、年間10万食にのぼる。ケア予算は、7割は政府助成金、2～3割が個人負担となる。「施設ケア」は3ヶ所の施設に介護レベルのハイとロウの2段階に分けて入所を判定する。個人負担は1日37ドルである。入居者は男25パーセント、女75パーセントで虚弱老人が殆どで、平均入居期間は　3年程度。認知症も増えてきている。入居までの待機期間は、3～6ヶ月。今後の課題は、多くの人々が望む「在宅介護の充実」にある。さて、この都市も大垣市との友好関係があり、日本庭園が大事に維持されていた。（10月14日）